

# 令和7年度第3回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	令和8年3月16日（月）午後2時から3時まで	
開催場所	奈良市役所 中央棟5階 秘書広報課 応接室（キャンベラの間）	
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 (1) 令和7年度事業報告について (2) 令和8年度事業計画（案）について 4 閉会	
出席者	委員	仲川委員長、佐々木副委員長、萩原委員、青木委員【計4人出席】
	事務局	谷田事務局長（奈良市市民部長）、森事務長（奈良市文化振興課長）、吉川、荒益、藤井振興係長、杜、山田（事務局・文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人なし）	
決定事項	●全議案について 承認された。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民部文化振興課）	

## 議事の内容

### 1. 挨拶

### 2. 委員長挨拶

### 3. 議事

(1) 第1号議案 令和7年度事業報告について

(2) 第2号議案 令和8年度事業計画（案）について

（事務局より説明）

#### 令和7年度事業報告

- ・令和7年10月25日から令和8年3月30日までを事業期間として実施。「美術」「演劇」「メディアアート」の3つの部門でプログラムを展開し、事業全体で1,324人が参加。
- ・「古都祝奈良の学校」「グリーン・マウンテン・カレッジ」「まちなか舞台」「パフォーミングアーツ」「ならまちアート・コラボラトリー」について、別紙資料1のとおり説明する。「文化・芸術・観光をめぐるシンポジウム」は、3月30日に開催予定。

#### 令和8年度事業計画（案）

- ・「古都祝奈良の時空旅行」「古都祝奈良の学校」「グリーン・マウンテン・カレッジ」「東アジア国際シンポジウム」の4事業を資料2の内容のとおり展開する予定。

#### 令和8年度事業予算（案）

- ・資料２－１のとおり説明する。収入の部、市からの負担金２０，６７０千円、プログラム参加者の参加費・観覧料３３０千円。文化庁補助金（文化芸術創造拠点形成事業）については現在申請中。
- ・支出の部、事業費として横断プログラム経費１４，１２４千円、美術経費５，１８０千円、広報事業経費１，３８２千円、事務局経費２１８千円としている。予算については市予算議決前のため、改めて実行委員会にて諮る。

⇒第１号議案、第２号議案、承認。

#### ○委員からの意見

- ・令和７年度文化庁補助金（文化芸術創造拠点形成事業）が不採択となった理由について確認したか。
- 不採択理由については、問い合わせを行い地域人材の活用に関する点で評価が伸びなかったと説明を受けた。今後の検討の参考としていきたい。
- ・メディアアートの取り組みについて、今後の展開は。
- インスタレーション形式で発表の場を設けたりするような展開を視野に入れている。関係ができた方や施設との連携も継続していきたい。
- ・「時空旅行」については、過去をたどるだけでなく、未来の奈良を描く視点も取り入れてメディアアートとして表現し、次の展開を導けばおもしろいのでは。
- 未来への橋渡しの部分として、2030年に奈良市内に新駅ができる。そのまち開きにも合わせ事業を続けていきたいと考えている。その部分でメディアアートでの表現の可能性も大いにあるかと考える。
- ・「東アジア国際シンポジウム」の実施であるが日中韓の情勢の動向に注視を。意欲的な取り組みであると思うので、成功させてほしい。
- ・次の１０年が見通せるような刺激的な取り組みを。
- ・「グリーン・マウンテン・カレッジ」と「古都祝奈良の学校」を連携させて、バージョンアップした取り組みが考えられたらよいのではないかと思う。
- ・「時空旅行」は、施設や史跡に限らず、奈良という都市空間全体を舞台として捉えることで広がりを見せることができると考える。
- ・「古都祝奈良の学校」での教科書づくりは、非常におもしろい。何か目的として読むものではなく、読んだ人がついアートへ誘われるような、そのようなものになればいいかと思った。
- ・「時空旅行」については、場所の歴史と現代の状況を表現との関係性で踏まえ、その場所を選んだ意味合いや位置付けについて整理すること。奈良の特性や現在につながる価値・課題といった視点についても併せて取り入れていくこと。

#### 4 閉会